

⑤力強く安定した産業づくり

本町の主力産業の農林水産業、その最前線であります農山漁村の現場の状況は、過疎や高齢化、慢性的な担い手不足など厳しさを増しております。

さらに、TPPや国の農業の成長産業化の一環で行われる各種農政の改革など、これまでにない大きなうねりが生産者にも直撃している状況にはありますが、これを克服し、地域の活力を蘇らせることは、町として待ったなしに取り組みなければならない課題と考えております。

農業振興全般ではありますが、この中でも農業を担う人材育成には、平成23年度から農業支援員制度により新規就農者の育成を行っておりますが、これまでの3年間の研修結果を踏まえて、今後は特に、農業を如何にして経営として成り立たせるかという、農業経営に関する研修や先進的な生産方法、市場需要に応じた生産方式などへの取組を強化してまいりたいと考えており、今年度も2名を採用して本町農業の担い手を育ててまいります。

また、生産者、農協、農業委員会などと連携し、地域の耕作地の効率化や流動化を図るための人・農地プランの策定を積極的に行い、基本となる農地の集積化を図り生産性の向上を支援するとともに、農作業の外部委託などへの取組を支援するとともに、各種農業制度資金への利子補給や地域が一体となつて取り組む生態系環境の保全に係る活

動も引き続き支援してまいります。

軽種馬振興についてですが、昨今はより速くより強い馬を求める購買者への対応から、それぞれの生産育成過程においては、高度で専門化した技術力や施設、そしてそれを活かす人材の確保、分業化やグループ化などが従来とは異なる新たな取組が必要となつてきております。

その中で、市場上場馬のセリ馴致への支援は、上場馬の仕上がりや、その後の競馬成績も良好で、取引価格や売却率も向上していることから、生産者の負担軽減と経営安定のために継続して行つてまいります。

また、ホッカイドウ競馬をはじめとする地方競馬での協賛レースや、アイバ祭などの売上向上対策への支援も引き続き行い、新冠産馬の取引向上につなげてまいります。

次に、酪農振興についてですが、日高管内でも有数の生産地で、本町の農業でも欠かせない重要な業種であることから、生産者の労働力軽減を図るヘルパー事業や担い手の育成、個体改良のための乳牛検定事業、そして、町有牧野での道営草地整備事業による放牧環境の改善と、昨年度より乳牛の専門的知識を有する職員を配置したこともあり、預託事業のさらなる推進など生産体制の支援を行つてまいります。

次に、肉牛振興についてですが、新冠産の優秀な肥育素牛生産のために設置した「和牛センター」での肥育成績

補装整備事業への助成を行います。

なお、主力のタコ漁の安定化のための稚ダコ保育礁の整備や、ホツキ最小成員の放流、マツカワの中間育成事業など育てる漁業の推進に対しても継続して行うなど、漁家の経営安定化と所得向上のために施策を展開してまいります。

次に、商工業活性化と観光振興についてですが、食肉センター操業に合わせ移住者の増加も想定されることから、サービスマスターを中心とした新たな産業や雇用の創出を促すこと、本町の地域のもつ魅力や資源などを活かし、小売や観光、サービスマスターと地元産業の連携を促進させることが必要であります。

これらを実現させるには、商工会の機能を最大限発揮していただき、社会や消費者の変化に柔軟に対応できる会員の経営改善や、新規事業への取組などに積極的に関わっていただくために、事務局への支援を拡充してまいります。次に、6次化産業についてですが、これまで取組んでまいりました地域産業の連携による6次化で、昨年からチーズ生産への取組や、ピーマンによる商品の試作販売などの動きが出てまいりました。

今後は、これらの動きを的確に捉え、町独自の支援制度の創設やソフト面での支援を拡充させ、飲食店や観光施設での新たな地域資源を活かしたメニュー提供や、商品の製造販売などへの取組の支援などを行い、町内で連携型の6

も良好に推移し、地域内保留による低

コストで疾病などのリスクの少ない良質な生産体制の構築が成され始めておりますことから、これをさらに推進してまいります。

併せて、町内での優良繁殖牛の保留と生産コストの削減化を図るため、育種価の判明しております優良町有牛による受精卵移植事業に使用する町有牛の飼養管理頭数の増頭にも本年度から着手してまいります。

次に、施設野菜振興についてですが、主力のピーマンは市場評価も良好で、取引価格も好調であることから、生産者と農協が取組む広域での生産、出荷増産体制の計画を支援するとともに、道内一の産地としてのさらなる生産性や技術の向上を図るための支援を行つてまいります。



今年も始まった基幹作物のピーマン栽培

次に、毎年農作物に多くの被害を与えておりますエゾシカやアライグマな

はじめに、学校教育についてですが、

これからの社会をたくましく生き抜く力を身に付けるため、幼小中の連携と開かれた学校づくりに向けた環境整備に意を用いてまいります。今年度は、きめ細かな指導に対応する学習支援員の配置やタブレット型端末の試行的導入を行うなど学力向上に向けた教育環境の一層の充実を進めてまいりたいと思っております。

次に、4年目を迎える認定こども園ド・レ・ミについてですが、平成27年度からスタートする新たな子育て支援制度に対応するため、子育て支援センター機能を教育委員会に所管換えし、ド・レ・ミとの一体的な運営により、小学校就学前の子どもに対する総合的な子育て支援策を提供し、社会全体で子育てを支える環境を整備してまいります。

次に、社会教育についてですが、町民が生涯にわたって、自主的にいきいきと学ぶことができるよう、レ・コード館における生涯学習の充実とともに、各年代の学習主体に応じて提供する社会教育や生涯スポーツ、郷土文化・芸術文化などの充実を支援し、学校・家庭・地域社会が一体となった「ふるさと力」の向上と、ネットワークを生かした生涯学習社会の実現をめざします。

特に、町づくりを支える団体や人材づくりの観点からスポーツや文化団体などをはじめ、各種社会教育団体の活性化と適切な支援・協力を進めてまいります。

どの有害鳥獣被害防止対策ですが、今年度から、駆除エゾシカを地域資源として、その残滓の有効利用を図るために、株式会社北海道食美楽が行います「日高エゾシカ総合センター」が本格稼働することから、これまで以上に駆除を促進させたく、猟友会の協力を頂きながら推進してまいります。

また、新冠町、日高町、平取町で構成する「日高西部有害鳥獣被害防止協議会」の事業により、これまで同様に、罾や電気柵設置に係る助成を行い、さらなる被害防止に向けた取組を支援してまいります。

次に、林業振興についてですが、「新冠町森林整備計画」に基づき、若園地区のカラマツ11・28ヘクタールの皆伐や天然林などの町有林の除間伐と植栽などを継続的に実施し、森林資源の有効活用や将来にわたる森林機能の維持のための事業を実施してまいります。

次に、漁業の振興についてですが、東日本大震災以降、本町沿岸や沖合の漁場に大小多数の漂流物があり、これら漂流物との衝突事故による乗組員や船舶への多大な損傷や、安全で効率的な操業のために、漁業協同組合と連携し、組合員所有の全ての漁船に高性能レーダーや魚群探知機、GPS、無線機の整備の支援を行います。

また、水揚げされた魚介類を衛生的で安全に、そして高価格での取引につなげるため、荷捌き場周辺の環境を向上させるため、隣接地のアスファルト



多くの親子が参加した秋のお楽しみ広場

むすびに

新冠町を取巻く経済、政治、そして行財政の状況は依然厳しい状況にありますが、互いに協力し、知恵を出し合い、チャレンジすることで乗り越えられることも多いはず。今後も町民の皆さんと協力し合い、一体となった町づくり、協働のまちづくりを行い「小さくてもキラリと光るまち」「小さいからこその心あたたかいまち」の実現に向け、全力で町政を推進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、議会議員の皆さんをはじめ町民の皆さん、関係機関並びに関係諸団体の皆さんのご理解とご支援を心からお願ひ申しあげまして、平成26年度の町政執行方針と致します。